

施設劣化 ドローンで調査

奈良・大和高田 費用削減図る

古い公共施設の維持管理が自治体の大きな負担となる中、奈良県大和高田市が施設の劣化調査にドローンを使う試みを始め



●奈良県大和高田市で試行されたドローンによる施設の劣化調査＝8日●ドローンから撮影したプールを覆う建物＝8日、奈良県大和高田市(同市提供)

た。地上からの目視では見逃されることがある修繕が必要な箇所の早期発見や、調査費用の大幅削減につながる」と期待されている。

6月8日、市総合公園の温水プールを覆う高さ約14メートルの建物の上をドローンが飛んだ。業者が屋根や、手で開閉する外壁の状況を確認し、写真で撮影。市職員が劣化具合をモニターで確認した。プールは1995年にオープン。建物はドローン形を上りにくく、調査の

ための足場を作るのにも多額の費用がかかる。これまで設備の法定点検はしてきたが、劣化具合の調査は地上からの目視程度にとどまっていた。

ドローンを調査に使うアイデアは市が発案。今回は試行との位置付けで、複数の業者と協定を結んだ。それぞれこの建物を調査してもらい、画像データなどの提出を求めている。業者側には公共施設の調査実績を作りたい事情があり、市の予算はゼロで済んだ。

市によると公共施設の建物調査にドローンを導入した例は全国でも少なく、財産管理課の本田めぐみ主事は「他の施設にも使っていきたい」と本格導入に意欲を見せる。